



 巻頭言

学会誌の分冊化

伊吹 公夫*

我が国における電子計算機の研究が本格化してより、四半世紀近くなり、1980年には本会も20周年を迎えようとしている。情報処理という概念が確立し、本学会が創立された当初は、個々の計算機に固有名詞を付けて呼べる状態であったが、20年を待たずして、計算機保有台数も3万台という発展を遂げており、この分野の進歩普及は著しいものがある。

情報処理分野の発展と本学会の成長は相たずさえて歩んでおり、この技術の普及発展のために、本学会に対する期待は大きなものがある。なかでも、その機関紙である学会誌の分冊化を含めた改善充実に関しては、会員諸氏より貴重な御意見が寄せられ、我が国における情報処理分野の飛躍的発展のためにも、その実行が懸案事項となっていた。

このような情勢を受けて、編集委員会では昨年より、大会での一般アンケートや歴代理事、編集委員等各方面の関心ある向きに参集論議して頂く等、多数の方々の御意見を蒐集した。

情報処理学会で扱う分野は、数学・物理学等の基礎科学、情報・電気通信等の応用工学、さらに各種ビジネスや製造・医療等の利用技術、ハードウェア・ソフトウェアの製造分野等々、多方面に及び、それに伴って、価値観も極めて多様なものがある。このことは、学会誌に関する要望の面でも現われ、各階層で種々の異なった御意見を頂いた。これらを分類集約すると次のような事項となる。

第一は論文誌の国際化である。これは、発表論文がただちに国際的に流布し得るように、サーキュレーションの広い言語で表現することと、論文内容が国際的基準に達していることとの二つが要点であり、研究水準の国際レベルでの向上が狙いである。

第二は解説・講座の充実である。情報処理の分野は多方面に及び各種の専門に分化されているが、各専門

外分野の進展に関する知識を容易に得たいとの要望であって、各専門分野の普及と知識の拡大が狙いである。

第三は論文発表の機会の拡大と即応化である。査読を通じて論文の質の向上をはかり、より多くの論文を採択することにより、情報処理研究者の量の拡大と向上を狙いとする。また、投稿より掲載までの期間を短縮し、即応化をはかることである。

以上のような会員各位の要望を実現するためには、学会誌の分冊化や編集活動の強化等が必要であり、次のような対応策を計画し、実行に移しつつある。

論文誌の国際化に関しては、学会事務局の尽力によって、財政的に可能な欧文誌の発行方法の見通しが得られたので、現在の編集委員会と独立に欧文編集委員会を設置することが理事会で承認された。年間、2～4回の発行の予定であり、会員諸氏の英文論文でのご投稿を期待する。

解説・講座の充実に関しては、解説・講座小委員会が渡部理事を中心として発足し、各専門分野別にスペクトラムを作り、学会誌を揃えることにより、情報処理に関するハンドブックが形成されるよう計画している。これに関して、各調査研究委員会の活動も取り入れ充実するようにしたい。

論文の発表の機会拡大と即応化に関しては欧文論文誌への分冊化にしたがい、論文誌ページ数が拡大できることで当面は対処するが、将来、また論文量が増大すれば専門ごとの分冊の方向もあろう。

学会誌の充実に関して、編集担当では以上のような対策を計画しているが、学会誌の充実と向上は一に会員各位の研究活動の反映である。一方、この向上の一助にこれらの計画が役立てば幸甚である。また、これらの計画に関して、御意見を賜った方々に感謝するとともに、さらに多くの方々の御意見を拝聴し、今後の計画に反映させていきたい。(昭和51年7月21日)

* 本会常務理事 日本電信電話公社武蔵野電気通信研究所